

令和3年11月12日（金）
国土交通省関東地方整備局
京浜港湾事務所

記者発表資料

日本最大級の岸壁となる横浜港新本牧ふ頭の「鋼板セル」第1函据付 ～お知らせ～

- 京浜港湾事務所では、横浜港で増加するコンテナ貨物の取扱に適切に対応し、基幹航路の維持・拡大を図るため、横浜港国際海上コンテナターミナル再編整備事業の一環として、新本牧地区でコンテナターミナルの整備を進めています。
- 新本牧ふ頭のコンテナターミナルは、日本最大級（水深18m、岸壁延長1,000m）の岸壁を有することから、世界最大級のコンテナ船が2隻同時に着岸可能となります。
- この岸壁は、円筒状の「鋼板セル」（1函：直径24.5m、高さ25.0m、重さ約350トン）を海底に連続的に据え付けて整備されます。

このたび、第1函目の現地据付を行います。

- 据付実施日は令和3年11月17日（水）を予定しておりますが、工事の工程や天候等によって順延する可能性があります。
- 据付当日の現地取材は受け付けておりませんが、鋼板セルの据付に関する資料・写真映像の提供を予定しています。
資料・写真映像を希望される方は、令和3年11月16日（火）12時までに別添の資料申込書でお申込みください。

京浜港湾事務所ホームページURL <https://www.paktr.mlit.go.jp/keihin/>

発表記者クラブ		
竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会 神奈川県政記者クラブ、物流専門紙		
お問い合わせ先		
	国土交通省 関東地方整備局	京浜港湾事務所
(工事に関すること)	副所長（技術） 前任建設管理官	渡部 武士 原田 勉
(取材申込みに関すること)	副所長（事務） 港湾保安調査官	高谷 浩一郎 伊藤 巧
電 話：045-226-3709		

横浜港新本牧ふ頭の概要

新本牧ふ頭は、国際コンテナ戦略港湾としての横浜港の将来を見据え、コンテナ船の大型化や貨物量の増加に対応するため、大水深・高規格コンテナターミナルと高度な流通加工機能を有するロジスティクス施設を一体的に配置した最新鋭の物流拠点を形成するものです。

新本牧ふ頭のコンテナターミナルは、日本最大級（水深18m、岸壁延長1,000m）の岸壁を有することから、世界最大級のコンテナ船が2隻同時に着岸可能となります。



横浜港新本牧ふ頭

出典：国土地理院



新本牧ふ頭
(整備中)

第1函目据付箇所

令和2年12月16日撮影

完成イメージ図



コンテナターミナル

ロジスティクス施設

新本牧ふ頭

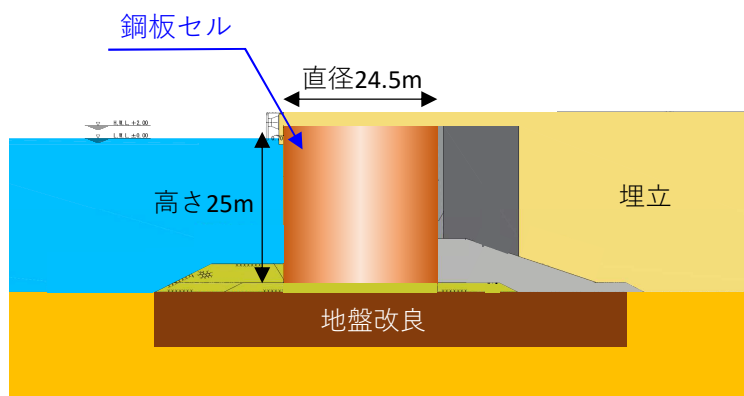
新本牧ふ頭岸壁工事（鋼板セル工法）

新本牧ふ頭の岸壁は、「鋼板セル工法」で整備しています。

鋼板セルは、工場で円弧状に加工された5枚の鋼板（セルブロック）を現場の作業ヤードで接合して円筒状にすることで、1函（直径24.5m、高さ25.0m、重さ約350トン）が完成します。

作業ヤードで製作された鋼板セルは、大型起重機船で設置現場まで運ばれ、強固に改良した地盤の上に据付けられます。その後、鋼板セル内に揚土船から中詰材を投入して鋼板セルを安定させます。

岸壁 標準断面図



鋼板セル製作・組立状況



大型起重機船による据付イメージ
（南本牧MC-4工事）



【別添】

資料申込書

※お申し込み期限：令和3年11月16日(火)12:00

報道機関名	
所属記者クラブ	
担当者名	
連絡先、部署	
電話番号	※緊急時に連絡可能な電話番号をご記入ください。
メールアドレス	
連絡事項	

※資料申込書の提出にあたっては、以下のメールアドレスにご送付ください。

ご送付先 E-mail: keihin-k83ab@mlit.go.jp

※ご提供いただいた個人情報は、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律にのっとり、本件に関する連絡のみに利用し、厳正な管理により取り扱います。

■ お問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所

(工事に関する事)	副所長 (技術)	渡部 武士
	前任建設管理官	原田 勉
(取材申込みに関すること)	副所長 (事務)	高谷 浩一郎
	港湾保安調査官	伊藤 巧

電 話 045-226-3709